

## 頭は働きたがっている

体は、使へば発達するやうに作られてゐます。その体を幼児はいつも使ひたがってゐます。だから、うまい具合に体が発達して行くのです。然し、いくら体を動かすことが好きな幼児でも、腹が空っぽだと体を動かしたがりなくなります。全くの空腹が続いたら元気の出ようがありません。腹に栄養のある食べ物を入れて満たしてやる必要があるでせう。

頭も、使へば発達するやうに作られてゐます。その頭を、幼児はやはり使ひたがってゐるはずですが、漢字を覚えると、知らない漢字を見ても頭を使って読もうとするのです。所が、これまで幼児の漢字教育は早過ぎると言って幼児の頭に漢字を入れてやることをしませんでした。それで幼児は頭を使ひたくても使ひやうが無く、従って頭の働きが良くならなかつたのです。頭の栄養になる漢字を頭の中に満たしてやる必要があるのです。

幼児の脳は、単に「漢字を理解し記憶する」といふ働きをするだけではありません。消化器管の働きのやうに、無意識の中で漢字を分類し整理して、その中に潜んでゐる法則を捜し出し、その法則を使って未知の漢字を推理するもののやうに思はれます。この脳の働きは幼児期に最も強く働いて、年と共に衰へて行くらしく思はれます。だから、幼

児期に漢字を学ばせる必要があるわけです。